

ひと・まち広島未来づくりファンド

第23回(令和7年度)助成団体の活動成果について

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 部 門 成 員	三篠二丁目楽団	三篠二丁目楽団(音楽を通じた地域密着型交流活動)	4.8万円
	計 1団体		4.8万円
ま ち づ くり 活 動 発 展 助 成 部 門	國光神楽団	十二神祇神楽復活によるまちづくり	41.1万円
	特定非営利活動法人 ホープスマイル	地域の空き家を利用した子ども達の居場所作り	34.2万円
	みささ日本語交流ひろば にじいろ	外国籍住民との「やさしい日本語」での「交流」を通したまちづくり	3.5万円
	牛田ほおずき祭SDGsスタンプラリー	牛田ほおずき祭SDGsスタンプラリー	25.7万円
	せんだまちアートプロジェクト実行委員会	せんだまちアートプロジェクトー写真散歩ー	25.5万円
	7 hours club	ヘルスケア活動を行う若年層のコミュニティ形成・農業支援	39.1万円
	段原地区町づくり協議会	猿猴川河童祭り	25万円
	CROSS BUILD	学生と地域の接点づくり	24.3万円
	計 8団体		218.4万円
	合計 9団体		223.2万円

※応募申請順

※団体育成部門については、2団体に助成決定後、1団体が辞退をしています。

団体名【三篠二丁目楽団】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	三篠二丁目楽団（音楽を通じた地域密着型交流活動）
②実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） 三篠二丁目楽団主催（花見会・年度末コンサート）、連携先 三篠二丁目西町内会、まなびキャンパスひろしま、三篠・大芝児童館、青少協、横川商店街、
④内容	As of March 19th 2026 ・三篠二丁目楽団 年間活動・実績 ・楽団presents 河原音楽会 年間活動・実績 ・地域音楽イベントを主催：花見会・河原音楽会・年度末コンサート等） ・地域イベントに参加（企画含む）：三篠二丁目西敬老会、まなびキャンパスひろしま交流会・お楽しみ広場、三篠・大芝児童館クリスマス会、横川クリスマス等
⑤今後の課題・展望	（上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など） ・課題：大きな課題はございませんが、強いて悩み事をあげるならば、1）13名を超えるメンバーの練習時間の設定が難しくなり、練習不足気味であること、2）今年度、新規メンバーの参加は'26年3月に1名のみで、演奏曲目に変化がつけにくいことなどがございます。 ・今後実施したい追加活動-1：新規メンバーの参加を広く求め、さらに音楽に広がりや幅を持たせたいと考えております。幸いにして男性ボーカル（兼将来管楽器）の楽団員を1名追加出来ました。また、追加の活動として、音楽のみならず、ストーリー性を持たせた劇風・ミュージカル風の演奏も試したいと考えております。 ・今後実施したい追加活動-2：交流の幅を拡げて、「にじいろ」との交流を予定しております。（'26年3月29日共同花見会）また、河原音楽会に、セミプロ・プロミュージシャンを招待することで、楽団（楽団員）の音楽クオリティ向上のためのヒント等を得たいと考えております。

団体名【 國光神楽団 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	十二神祇神楽復活によるまちづくり
②実施期間	2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 國光神楽団
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法： 広島市安佐南区沼田町伴地区では、かつて地域の祭礼や行事の中で親しまれてきた郷土芸能「十二神祇神楽」が、担い手不足などの影響により長年にわたって継承されていない状況が続いていた。こうした状況を受け、地域文化の再生と次世代への継承を目的として、令和4年(2022年)に新たな継承団体として「國光神楽団」を結成した。 國光神楽団では、10代・20代の若者を中心に団員を募り、神楽の技術習得だけでなく、地域との関わりや郷土文化への理解を深めながら、十二神祇神楽の復活に取り組んでいる。しかし、神楽の上演に必要な衣裳や道具は高価なものが多く、これまで寄付や自己負担により、必要最低限のものを少しずつ揃えてきたのが実情である。 本事業では、こうした課題の解決を図るため、神楽衣裳の一部を新たに整備し、上演可能な演目の充実を目指した。整備した衣裳は、広島市伴福祉センターで実施している毎週の定期練習において使用するとともに、安佐南区沼田町伴地区を中心とした各種公演の際にも活用している。練習では、団員が実際の本番を想定した環境で稽古を行うことが可能となり、技術向上や表現力の向上につながっている。 また、公演については、地域のイベント等を通じて、広く一般の地域住民に公開する形で実施しており、神楽の魅力を身近に感じてもらう機会を創出している。 活動地域： ・広島市伴福祉センター（毎週の定期練習） ・安佐南区沼田町伴地区を中心として広島市内各地（公演） 対象者： ・國光神楽団 団員（現在10名）〔練習〕 ・一般地域住民ほか不特定多数〔公演〕

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 本事業により、長年継承が途絶えていた安佐南区沼田町伴地区において、郷土芸能「十二神祇神楽」を継続的に上演できる環境が整い、地域文化の再生に大きく寄与する成果が得られた。 神楽衣裳を整備したことで、これまで人数や物品の制約により上演が難しかった演目にも取り組むことが可能となり、上演内容の充実が図られた。また、練習の段階から本番と同様の衣裳を使用できるようになったことで、団員一人ひとりの技術向上や表現力の向上につながり、舞台の質の向上が実感されている。 本事業は、文化の継承を軸としたまちづくりの一例として、今後の継続的な地域活性化につながる取り組みであると考えている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 本事業では、衣裳や道具の不足により上演可能な演目が限られているという課題を解消し、十二神祇神楽の継承内容を充実させることを目的として取り組んだ。 具体的には、これまで衣裳が揃わず上演できていなかった演目「所望分」に使用する、色違い5点の狩衣をはじめ、従来不足により支障をきたしていた衣裳やかつらを中心に整備を行った。 これらの整備により、新演目として古典の重要演目である「所望分」の習得に本格的に取り組むことが可能となり、令和7年9月には地域住民に向けてお披露目公演を実施することができた。伴地区内において「所望分」が上演されるのは約30年ぶりとなり、地域住民や神楽ファンから大きな注目を集める成果となった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 本事業の実施を通して明らかになった課題の一つとして、新規団員の入団が十分とは言えず、新たな演目への継続的な挑戦が困難な状況にある点が挙げられる。特に、演目数の拡充や規模の大きな公演を実施するためには、安定した人員体制の確保が不可欠である。 一方で、衣裳や道具の整備が進んだことにより、既存団員の技術向上や活動意欲の向上といった成果も見られており、今後も内容の充実した活動を継続できる見込みである。実際に、令和7年10月には10代1名、今年1月には10代1名および50代1名の計3名が新たに入団しており、現在は基礎技術の習得を中心とした育成に力を入れている。 今後は、団員募集により一層力を入れるとともに、公演回数が多く活動が活発である現状を踏まえ、無理のない体制で継続可能な運営を行うため、計画的な活動を進めていく必要がある。また、衣裳や演出面においても工夫を重ね、伝統を大切にしながらも新しさを感じられる舞台づくりを行い、「國光神楽団ならではの魅力」の確立を目指していく。 今後も、衣裳や面等の整備を進め、これまで廃絶していた演目の復活に取り組むなど、郷土芸能の継承にとどまらず、地域の誇りとなる文化活動として定着させ、広島市のまちづくりに継続的に貢献していきたいと考えている。

団体名【.....特定非営利活動法人ホープスマイル】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	地域の空き家を利用した子ども達の居場所作り
②実施期間	2025年4月1日～2026年3月31日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） 特定非営利活動法人ホープスマイル
④内容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） 会場：安佐北区深川 ふかわのおうち 対象者：深川小学校児童、子ども食堂に参加している児童（小学生） 毎週木曜日の放課後 13:30～17:30 と毎月第2土曜日の 10:00～16:00 に開催 木曜の活動内容：学習支援、おやつ作り（マドレーヌ、クレープ、ワッフル、ガトーショコラ、クッキーなど）、 木曜・土曜共通の内容：レジンづくり、スライム作り、お絵描き、工作、キーボード演奏、羊毛フェルト工作、プラレール、けん玉、外遊び（おにごっこ、バトミントン、バスケット、縄跳び）など 夏休みは学生ボランティアと夏休みの宿題をしたり、プール遊び、お昼ご飯はカレーライスで、スイカ割りをした。 土曜の活動内容：おやつ作りに加えて昼食作り ・芋ときゅうり・トマトの苗植え、朝顔の種を植える。（5月） ・芋ほり&お芋のお菓子作り（11月） ・広島文教大学教授と学生による防災クッキング（5月・6月）、食育クッキング（11月）、味噌づくり（2月） ・プログラミング入門講座：プログラミングをした車を走らせたり、色を点滅させたりする。（10月・12月） ・夏祭り：学生ボランティアが企画運営でスーパーボールすくい、そうめん、ポップコーン、カードゲーム、フラフープじゃんけんなど ・クリスマス会：学生ボランティアと一緒に、クリスマスケーキづくり、昼食はピザ、クリスマス工作、ビンゴ 土曜日は11月～未就学児の子ども達とその保護者の方と合同で開催。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 昨年度の冬に広島文教大学の学生さんがイベントを開催したご縁もあって今年度も講座&調理実習をしていただき参加者から好評だった。昨年好評だった夏祭りやクリスマス会を今年も学生ボランティアに企画運営してもらいとても盛り上がった。昨年より参加者も増えた。空き家を改修しそこを拠点に環境を整備して自由に活動できるため昨年よりさらに活動の幅が広がり、参加者の満足度につながっている。そのため参加者がまた別の友達を誘って参加者が増え、新入会は17人。総会員数は39人。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 当初予定していた木曜の午前に学校に行きたくない子の居場所『スマイルルーム』は申し込みがなく開催できなかった。日曜の子ども食堂の後の時間にふかわのあそびばという小学生ならだれでも参加可能な時間帯も作りスマイルルームの募集と一緒にチラシを作り小学校に配ったことで認知も広がり参加者増にもつながった。 今年度の活動は広島文教大学のイベント4回、外部の講座(プログラミング)2回と外部開催のイベントが好評でよかった。土曜の参加は木曜に比べて少なめだったが、未就学児さんとの合同開催が好評でよかった。夏祭り、クリスマス会、夏休みの宿題支援企画など学生ボランティアを起用する機会も多かったが、学生さんにどこまで任せるのか、学生さんが楽しみながらも負担にならない程度に任せるような配分が必要だと思った。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 地域的に不登校児童の居場所としてのニーズはないと受け止め、現存の子ども達の居場所としての木曜の放課後・土曜の開催をさらに充実させようと思う。子ども達の興味のあること・得意なことに関しての外部講師を招いて子ども達の興味をさらに広げたり、得意なことをもっと得意にするための支援になるような活動を追加したい。学生ボランティアにも今後も無理のなく楽しめる範囲で参加していただき子ども達の遊びを広げるための支援につなげたい。学生ボランティアは進学や就職などで流動的なので、新年度に向けて新規ボランティアの確保のために近隣の高校にチラシの掲示を依頼したい。

団体名【みささ日本語交流ひろば にじいろ.....】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	外国籍住民との「やさしい日本語」での「交流」を通したまちづくり
②実施期間	2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) みささ日本語交流ひろば にじいろ、三篠二丁目楽団、三篠公民館
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 「日本語教室」と「交流」両方の観点で、外国籍住民と地域住民が相互理解を図り、ともにまちづくりを進めていく「多文化共生」が、我々の目的である。2025 年度は、毎月第 1・3 日曜日に三篠公民館を会場に交流活動を行った。 今回いただいた助成金は、主に参加外国籍住民の多様な日本語レベルとニーズに対応するための、各種日本語教材購入費用として活用させていただいた。 その結果、2025 年度は毎月第 1・3 日曜日の定期交流活動を計 22 回開催し、外国籍住民計 90 名、地域住民計 150 名の合計 240 名（いずれものべ人数）の参加者数となった。外国人の国籍は、中国、ベトナム、インドネシア、スリランカ、アメリカ、オーストラリア、台湾、フィリピン、ネパール、ミャンマーなどであり昨年度より国籍数が増えた。 またこれら定期的な活動以外には、横川地区で開催された 4/27（日）「横川ふしぎ市」や 8/16（土）「がわフェス」、11/9（日）「みささ公民館まつり」等での出店や展示、また 8/30（土）広島市西区大芝地区花火大会への参加等、地域行事にも積極的に参加し、外国籍住民との協働作業や活動を通して、一体感を醸成するよう努めた。 独自の文化交流会も行い、11 月 30 日（日）には地域の三滝神社での紅葉狩り、3 月 29 日（日）には地域の「三篠二丁目楽団」とのコラボで花見を企画した。従来はお弁当を日本人が日本の料理を作り、外国人を招待するという一方向の形をとってきたが、昨年度からは外国人も自国のお弁当（料理）、日本人は日本のお弁当を持ち寄りシェアしながら双方向の関係で食文化等の交流もできた。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 広島市横川地域の外国人在籍率は、3,9% (広島市平均が2,0%) と高くなっており、地域における多文化共生の実践が求められている。そうした点で、本会の果たす役割は大きい。特に、外国人と日本人が対等の関係でお互いの文化を尊重する具体的な交流が求められている。ボランティア活動ではありながら本会が具体的な実践を推進してきたことは評価されるべき効果である。対象者である外国人が自分の友人を誘って、横川地域外からも継続的に参加してくれるようになっているのは、さらなる広がりの可能性を秘めていると感じられる。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 中間報告で整理した課題のうち、以下のような達成状況である。 1) 参加外国人が継続して参加してくれるような環境・信頼関係づくり。 ◦曜日設定や仕事のシフトの関係で制約はあるが、安心して参加できるさらなる工夫が必要である。 2) 参加外国人のニーズをしっかりと把握する努力。 ◦日本語学習とおしゃべり、文化等の交流活動など概ね達成できている。 3) 参加者外国人のニーズや多様性に対応できる日本語教材の発掘や文化の相互交流のための環境づくり。◦平和文化センターの援助・支援をいただいた。 4) 地域の行事やイベントに参加外国人がお客様ではなく対等の関係で主体的に参加できる工夫。◦地域の自治会活動参加ができていないことが課題である。 5) “にじいろ”の活動を楽しく紹介する SNS 発信の継続。 ◦担当者である青年が仕事の関係で関われなくなったので再構築が必要である。 6) 日本人ボランティアが外国人から楽しく学ぶという姿勢を大切にして、対等の関係での多文化共生社会を目指す。◦概ね成功している。 7) 日本人ボランティアに青年層を増やす工夫。◦大きな課題であり、強化したい。 8) 日本人ボランティア向けのやさしい日本語講座の開催。 ◦平和文化センター主催の講座への参加者が増えた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今後、外国人の生活者はさらに増えていくように思われる。そうした外国人に対して、常に開かれた「交流ひろば」であり続けたい。そのための課題として、次の点があげられる。 1) 本会の日本人ボランティアに青年の参加を組織したい。外国人のほとんどは青年であり、やはり若い世代活動に参加すると柔軟性と共感力が増え、参加する外国人もさらに増えるであろう。青年の参加のために、広島市内の大学の日本語学科や国際関係を学ぶ学部へのアプローチを考えている。 2) 運営している中心メンバーは日本語教育の資格もないボランティアの地域住民である。専門的な知識や経験を引き続き平和文化センターの日本語教育コーディネーターの指導から学びたい。日本語教育研修会にもさらに参加者を増やしたい。 3) 活動資金が全くないので、助成事業に依頼したいし、行政にも支援を要請したい。 4) 外国人が生活する地域の町内会行事に参加したり、役員として運営に関わったりできるように橋渡しをしていきたい。 以上

団体名【牛田ほおずき祭り SAGs スタンプラリー】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	牛田ほおずき祭り SAGs スタンプラリー
②実施期間	令和7年6月16日～令和7年7月19日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 牛田ほおずき祭りSAGsスタンプラリー・オープンバス・社協、牛田のお店など
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) コロナによって牛田のお店や住む方も変わりお店とのつながりだけでなく住民間のつながりも希薄になりました。その為、誰もが暮らしやすい牛田の町の実現に向け、新しい住民やお店の方々と新たな繋がりを構築していくきっかけとなるように今回のスタンプラリーを実施しました。スタンプラリー実施に際し、コロナ前まで牛田商店街で行われていた牛田の歴史ある「ほおずき祭り」を牛田活性化協議会と共に復活させることができました。牛田商店街にて地域のお店や学生、地域の施設など約60店舗に参加をしてもらい事前に商店街を回ってもらいスタンプを集め、ほおずき祭りの当日(7/19)に景品交換をすることで沢山の方々の参加を得られるようにしました。地域の団体などにも協力してもらい、子育て世代や高齢者の方々、子どもたちなど様々な世代の参加を促し交流のきっかけとしました。 対象者 0才～120才まで誰でも参加OK。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか、また、対象者等の反響など) 今回は1000人以上の方(出店100名、スタンプラリー900名、オンライン10名)に参加いただき楽しんで頂くことができました。店舗と住民や住民同士などの顔なじみの関係が少しでもできたと思っています。また商店街の店舗や地域の施設などを回ることで、いざという時や困った際に頼れる場所や人を知るきっかけとなり、助け合える関係作りができたと考えています。実際に参加店舗からは、「お客さんから相談されて困った時に支援相談する先が分かった」や「ほおずき祭りの復活の導線となった」「子どもや高齢者、新しいお店や施設、保育園介護職員、高層マンションの人たち顔さえ見た事あればいざという時に助け合えるの〜コロナ後会ってなかったけん心配しとったんじや」という声が聞こえました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか、また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 今回は私たちのグループだけでなく、牛田中学校同窓会や牛田活性化協議会、社協、地域のお店の方、地域の若い子育て世代のパパやママ、女学院大学や広島商業高校などの学生と協力し準備・実施をすることができました。様々な世代や所属の方々と共に活動することで新たな交流が生まれ、スタンプラリーおよびほおずき祭りがより盛り上がり地域の活性化につながりました。その中で顔見知りの関係となり、「いざという時に助け合える関係」の土台作りのきっかけとなりました。 (現在までの活動で失敗した点、現在の悩みなど) ※現在計画中の活動は、実施に向けて心配される点など 反省点は、牛田の歴史や文化に関連していないものでスタンプラリーに入れてしまう等、企画の時点で手を広げすぎていて、学生ボランティアさんが思い描くようなイベントにならなかったと反省しています。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今回は町全体スタンプラリーと第27回牛田ほおずき祭り「一人一人思いや考え方は違っても認め合い助け合う町」「困った時にお互い顔なじみを作りで助け合える関係」の更なる強化や新しい関係の構築についても少しでも達成できたと思いました。今後は、各お店や施設などがこの思いを引き継いでくださると言われました。このスタンプラリーをきっかけに町全体で安心して楽しい町づくりができると思いました。ご支援を頂きありがとうございます。 育見介護支援SDGs スタンプラリーは、<u>名前を覚えて!!</u>「オープンスペース出張ひろば」<u>「牛田集会所」と</u> コラボする事にしました。毎週木曜日 9:00 ~ 14:00 牛田集会所でオープンしています。無料 このイベントをきっかけに、また活動していきたいです。 ありがとうございます。

団体名【 せんだまちアートプロジェクト実行委員会 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	せんだまちアートプロジェクト-写真散歩-
②実施期間	2025年10月25日～ 2025年11月 2日（一部、11月30日まで延長）
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） せんだまちアートプロジェクト実行委員会
④内容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） <概要> 中区の千田通り周辺地域の19の店舗・施設を会場とする写真展を開催しました。写真は全て明田弘司氏（1922～2015）によるもの。明田氏は1948年より、千田通り沿いに写真工房と居を構え、仕事の傍ら60年に亘り、復興していく広島街や人びとの暮らしを撮り続けました。そのうち85点について、明田フォトプロジェクトよりお借りし、撮影地の近くや、ゆかりの深い場所で展示しました。 <目的> この写真展の目的は、主に以下の三つが挙げられます。 ① 写真に捉えられた景色と今日の景色を重ね合わせるような体験を観賞者に提供し、地域の歴史や魅力を再発見する機会となること。 ② 普段の生活とは異なるまち歩き契機となり、地域の回遊性を高めること。 ③ 写真を通じた対話、交流を促し、地域への親しみや繋がりを育むこと。 <写真展をつくる> 千田胡子神社のガレージをメイン会場として設定し、写真展開催中は実行委員が常駐し来場者数を（可能な限り）カウント。その数は400を越えました。 その他の会場については、実行委員が一軒ずつ参加を提案したり、地元の方が話を繋げてくださったりして決まっていきました。明田フォトプロジェクトを講師に招きトークイベントを開催したほか、各店を訪れ講師から候補写真について詳しい解説をしていただき対話しながら展示写真を選出。展示位置やサイズ、数、固定方法などは、会場の特性に合わせて計画。開催中の来場者への対応は各会場にお任せし、代表が不定期で巡回。反響をうかがったり、展示状態のチェック、調整を行いました。 また、千田胡子神社にて観賞客と講師との質疑応答の日を設けました。 広島信用金庫鷹野橋千田支店では、展示期間を約一ヶ月延長。観賞機会を増やすことができました。 <広報> チラシ、マップを作成。回覧板や掲示板、また口コミによる広報、報道機関への告知、SNSの発信により、地元や近隣地域の方をはじめ、幅広い世代の方にご来場いただくことができました。NHKでは、二度、テレビ番組で取り上げて下さり、より客観的な視点からの広報、総括をしていただく機会となりました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) かつての町の姿を見て、当時を知らない世代の人々は、新鮮な驚きを感想を語り、当時を知る世代の方々は、懐かしさに胸打たれている様子でした。 皆さん思わず感動が声に出るようで、それがきっかけで、初対面の人どうしても、心を開いた状態で自ずと会話が始まるということが多かったです。 特に、多世代間の交流を生み出したことは有意義であったと感じます。 また、高齢者の方々の間で評判が広まり、普段あまり出かけなくなってしまったという人も来場されたり、一度来た方がご友人を誘って繰り返し訪れたり、時には、偶然会場で複数の方々が顔を合わせて同窓会のように盛り上がる場面もありました。 地域の活力の一助となれたと思います。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) <達成度>参加店舗・施設数、来場者数ともに、予想を上回る結果となりました。小学生や若年層を呼び込む取り組みがもっとできればより充実したものとなった筈ですが、概ね上述の目的は、達成されたと認識しています。 <成功した点>実行委員会は少人数で未熟な組織であり、全体的に進行が遅れがちでしたが、参加企業、各町内会はじめ地域の方々、報道機関の期待以上の協力により、成功に至りました。 <工夫した点>各会場ごとに開場時間等観賞条件が異なるため、混乱のないようにそれらを視覚的に明瞭に伝える一覧と会場マップを作成・配布しました。また、チラシについては、配布のタイミングや用途ごとに細かく内容を調節しました。 <主なトラブル>参加会場一軒の搬入当日キャンセル。直射日光による一部の展示作品の変形。印刷、展示のやり直し等。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) <課題> 展示場所の提供を打診するプレゼンをして回った後、地域で話が盛り上がるまで間の時間差があることを予測していませんでした。実行委員会内では参加会場を決定する締め切りを設定し、以降は、写真展の具体化と広報に注力する予定でしたが、その締め切りの後で(締め切りを過ぎているとは知らずに)地域の方が積極的に声を掛けて下さり、参加表明が増え、これを受け入れました。嬉しいハプニングであり、地域が盛り上がるのは本望でしたが、大変でした。準備期間が半年では短かったと痛感しました。 <今後について> 他の地域の方からも好評をいただいております、求めに応じて、他のまちづくり活動やアートプロジェクトへの参考例として、本企画についての経緯等、開示していこうと思います。

団体名【 7 hours club 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	ヘルスケア活動を行う若年層のコミュニティ形成・農業支援
②実施期間	2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日
③実施主体	(連携した機関・団体) サンフレッチェ広島、Lucky Bakery、三原市、DIG:R、ARCHIVE COFFEE ROASTERS BREATH HIROSHIMA、LOUPE COFFEE STAND、MILES COFFEE、NICE COFFEE STAND、 ninin、tata coffee stand
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 参加者 20 代、30 代 【定期開催・自主企画】 1. Saturday Morning Run 11 回、参加者数：のべ 469 名 内容：毎週土曜日ランニングイベント 2. Sunday Clean Up 7 回、参加者数：のべ 151 名 内容：月一度クリーンアップ 3. 農業体験 5 回、参加者数：のべ 7 名 内容：農家さんの手伝い 4. 7 hours club 1st anniversary x fit、参加者数：のべ 50 名 内容：ランニング、ヨガ、サイクリングのクロスフィットを実施 5. Hiroshima sip run 1 回、参加者数：のべ 300 名 内容：広島市内のカフェとコラボし広島市内を周遊するイベント 参加者数：937 名 【定期開催・自主企画】 1. 5/5.6 Coffee Culture Next、参加者数：のべ 29 名 内容：モーニングラン 2. 5/25 Morning Ride、参加者数：のべ 12 名 内容：Pop grumpy さんとのサイクリングイベント 3. 9/13 X fit (クロスフィット)、参加者数：のべ 37 名 内容：マジックアイランド開店記念イベント 4. 11/22 STAHUG FES (サンフレッチェ広島)、参加者数：のべ 28 名 2026. 3/28 サンフレッチェレジーナ、参加者数：のべ 40 名 内容：サンフレッチェ広島さんとコラボランニングイベント 5. 3/8 広島機構会議(100% for the c)、参加者：のべ 35 名 内容：アクティビストとして、環境活動、農業活動をされている講師を呼び講座を実施 参加者数：181 名

⑤実施効果	7 hours club は「心身ともに健康でいること」をテーマに、若者の生活習慣の改善と地域との関わり促進を目的に活動しました。2025年度は定期イベント41回、コラボ9回を実施し、企業や地域団体との連携を拡大。参加者も増加し、継続的に参加するメンバーが定着しました。特にプロギングや清掃活動の継続により、宮島花火大会翌日の実施依頼を受けるなど地域からの認知も向上。紹介や相談も増え、つながりが広がっています。参加者の約6割が継続参加するなど、睡眠習慣の改善や健康意識の向上といった行動変容も見られ、地域への主体的な関わりやシビックプライドの醸成につながりました。
⑥目的の達成状況	当初の目的であった「ヘルスケア活動の継続と会員増加」「農業支援の開始と関係性の構築」「ランニング企画の実施」については、いずれも一定の成果を上げることができ、全体として概ね達成することができたと考えております。 特に、ヘルスケア活動については継続的に実施することで参加者同士のつながりが生まれ、その紹介を通じて新規参加者が増加するなど、コミュニティの広がりを実現することができました。 一方で、農業支援に関しては、生産者とのつながりを構築するところまでは進展したものの、ランニングイベントと連動した農産品の販売支援までには至らず、当初想定していた価値創出の一部を実現することができませんでした。 今後は、構築した関係性を活かし、イベントと連動した販売機会の創出など、より具体的な成果につなげていくことが課題であると認識しております。
⑦今後の課題・展望	応募当初、7 hours club の参加者は20名弱であり、その規模に合わせた3年間の計画を策定していました。しかし定期イベントのモーニングラン参加者が増加し、開始から半年で1年目の目標人数を達成するなど、想定を上回るスピードで拡大しました。また、若者の健康志向の高まりを背景に、ニーズは農業支援よりも継続的な運動習慣づくりへとシフトし、農業分野への時間確保が難しくなった点が計画との差異です。一方で、急激な拡大により運営体制の整備が追いつかず、リーダー層への負担集中が課題となりました。この経験から、マニュアル整備やフィードバック習慣の導入など、持続可能な運営基盤の構築を進めています。今後は運営メンバーの拡充による負担分散と、活動の方向性に沿った取捨選択を行い、過度な拡大を避けながら質の高い活動を継続していきます。

団体名【段原地区町づくり協議会】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	猿猴川河童祭り
②実施期間	2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
③実施主体	主催：段原地区町づくり協議会 連携：地域町内会、地元企業・商店、学校関係者、出演団体、地域住民等
④内容	猿猴橋・猿猴川周辺を中心に、地域の歴史や親水空間の魅力を生かした「猿猴川河童まつり」を企画・実施した。実施にあたり、実行委員会による会議、出演団体との調整、地域への周知、広報物の作成、会場運営、安全管理等を行った。 当日は、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できるステージ企画や地域交流企画を実施し、家族連れを含む多くの来場者が集う催しとなった。

⑤実施効果	地域に身近な河川空間を活用した催しを実施することで、地域住民の交流機会の創出と、まちへの愛着醸成につながった。子どもたちや地域団体が出演・参加することで、単なるイベントにとどまらず、地域が主体となって支えるまちづくりの場となった。 また、来場者からは「地域のつながりを感じられた」「子どもと一緒に楽しめた」「猿猴川周辺ににぎわいが戻った」といった声があり、地域活性化の効果が見られた。
⑥目的の 達成状況	当初の目的であった、地域交流の促進、河川周辺のにぎわい創出、子どもたちを含む多世代参加の場づくりについては、概ね達成できた。特に、地域団体・出演者・関係者が連携して運営できたこと、子どもたちが主役になれる構成としたことは大きな成果であった。 一方で、準備・運営を担う人員の確保や、当日の導線整理、広報のさらなる工夫など、改善すべき点も明らかになった。
⑦今後の 課題・展望	今後は、より安定的に継続開催できる体制づくりが課題である。具体的には、担い手の拡充、協賛や地域連携の強化、当日運営マニュアルの整備、雨天時対応や安全対策の強化が必要である。 今後も、猿猴川周辺の魅力を生かしながら、地域内外の参加者が集う恒例行事として発展させ、地域のにぎわいと交流を継続的に生み出していきたい。

団体名【 CROSS BUILD 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	学生と地域の接点づくり
②実施期間	2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 1 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) CROSS BUILD
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 以下の3つの取組について、のべ107人が参加した。 ①地域づくりイベント・ワークショップへの派遣【地域活動に参加する】 学生のアイデア等が期待されている広島市内各地の地域づくりイベント・ワークショップ等への派遣を行った。 (実施8回、のべ17人参加) 5月23日 ららぽ（都心会議）参加（5名） 5月24日 Hello Hiroshima 体験会参加（3名） 7月14日 カミハチキテル会議参加（1名） 10月7日 広島駅周辺地区まちづくり協議会参加（1名） 10月29日 外国人観光を考える会参加（2名） 11月8日 たてものがたり参加（1名） 12月3日 あえるひろしま参加（2名） 12月8日 カミハチキテル会議参加（2名） ②セミナー「継ぎ矧ぐ（つぎはぐ）」【地域づくりを行っている人の話を聞く】 昨年度から開催している各地のキーパーソンや専門家を招いたセミナー「継ぎ矧ぐ」を継続的に実施した。安田女子大学だけでなく、叡啓大学からの参加もあるなど、参加者層の広がりがあった。 (実施5回、のべ73人参加) 6月6日 継ぎ矧ぐ07 まちのものがたり（24名）広島在住講師2名 9月26日 継ぎ矧ぐ08 無印良品（13名）広島在住講師1名 10月30日 継ぎ矧ぐ09 私の「遊び方」（8名）横浜在住講師1名 12月19日 継ぎ矧ぐ10 Uターン就職（10名）広島在住講師1名 2月20日 継ぎ矧ぐ11 あえるひろしま（18名）広島在住講師4名

	③フィールドワーク【学生が地域づくりを行っている現地を訪れる】 セミナーで登壇頂いた方や各地で地域づくりを行うキーパーソンのもとを訪れ、ヒアリングや現地調査・体験による地域課題の抽出や、ディスカッション、体験活動を通じて学生と地域の接点を作った。 (実施5回、のべ22人参加) 4月15日 岩国市FW(6名) 4月20日 島根県津和野町FW(3名) ※②セミナー参加(2名)を含む 7月27日 江田島FW(3名) 9月11日 鞆の浦FW(5名) 2月28日～3月1日 神山町FW(5名)
⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 本事業は、地元(広島市)の地域活動に参加する、地域づくりを行っている人の話を聞く、学生が地域づくり活動をしている人を訪ねるなど、大学生が地域と繋がる接点を創り出しており、地域にとって必要とされる「若い力」の提供と、大学生の経験値を増やすという、一石二鳥の効果があったと考えている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 当初の目標数値と実際の実施回数・人数の比較は以下の通りとなった。予算が減額となったため、①の回数が減少となったが、②については4回の予定のところ5回実施することができており、目標を上回る回数を実施することができた。 ①地域づくりイベント・ワークショップへの派遣 (目標10回、のべ30人参加) → (実施8回、のべ17人参加) ②セミナー「継ぎ矧ぐ(つぎはぐ)」 (目標4回、のべ80人参加) → (実施5回、のべ73人参加) ③フィールドワーク (目標5回、のべ30人参加) → (実施5回、のべ22人参加)
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今後の課題としては、参加者数の伸び悩みが挙げられる。各回の参加者数については、例えばセミナー「継ぎ矧ぐ(つぎはぐ)」については各回10～20名程度で実施することによりゲスト講師の話を聞くだけでなく、一緒に考える時間を作ることができるなど、適正規模は10～20名程度と考えており、参加者数を増やすためには回数を増やすことが必要であると考えている。 また、スタッフの所属については、安田女子大学が中心となっているため、今後は他大学への広がりも課題として挙げられる。今回、叡啓大学からの参加者もあったことから、今後、スタッフとして参画してもらうよう呼び掛けるなど、多様な大学からスタッフ参加してもらえる活動をしていきたい。